

# 景気動向調査結果報告書

2013年第I・四半期（1～3月）

VOL. 68

八尾商工会議所

八 尾 市

## 目 次

【調査実施の概要】	1
【調査結果の総括】	2
1. 製造業の景気動向	5
2. 非製造業の景気動向	9
3. 緊急事態への対応・事業継続計画(BCP)策定などの取り組みについて	12
4. 経営上の問題点・業界の動向など	14

## 【 調査実施の概要 】

本調査は、地域経済の総合的な動向を把握し、産業振興のための基礎資料の作成及び経営者への情報提供を目的として実施している。1996年7月に第1回目の景気動向調査を実施し、今回（2013年3月実施）の調査で68回目となる。

調査対象事業所は、八尾市内に立地する従業員5人以上の事業所を母集団として、その中から、製造業628社、非製造業（建設業、卸売業、小売業、サービス業）672社の合計1,300社を無作為に抽出した。

調査方法は、調査票を郵送し、回収をFAXで行った。

今回の回収率は、下表に示すとおり、製造業が21.8%、非製造業が16.2%、全体では18.9%である（表1～2参照）。

表1. 業種別回答状況

業 種 名	発送数	回答数	回答率
金 属 製 品	115	31	27.0%
機 械 器 具	181	41	22.7%
そ の 他 の 製 造 業	332	65	19.6%
製造業計	628	137	21.8%
建 設 業	100	15	15.0%
卸 売 業	128	36	28.1%
小 売 業	183	19	10.4%
サ ー ビ ス 業	261	39	14.9%
非製造業計	672	109	16.2%
合 計	1,300	246	18.9%

表2. 規模別回答状況































規模別	製 造 業			非 製 造 業			全 体		
	発送数	回答数	回答率	発送数	回答数	回答率	発送数	回答数	回答率
5～19人	397	66	16.6%	530	76	14.3%	927	142	15.3%
20～49人	143	43	30.1%	89	19	21.3%	232	62	26.7%
50～99人	48	17	35.4%	27	10	37.0%	75	27	36.0%
100～299人	29	10	34.5%	11	2	18.2%	40	12	30.0%
300人以上	11	1	9.1%	15	2	13.3%	26	3	11.5%
合 計	628	137	21.8%	672	109	16.2%	1,300	246	18.9%

## 【 調査結果の総括 】

日銀短観<sup>1</sup>（2013年3月調査）における全国の業況判断DI<sup>2</sup>をみると、全産業は▲8となり、前回調査（2012年12月）に比べて1ポイント改善した（12月=▲9→3月=▲8）。日銀短観近畿地区の業況判断DIも全産業で前回調査より1ポイント改善し（12月=▲13→3月=▲12）、全国、近畿ともに、企業マインドの悪化に歯止めがかかった。

八尾市の業況判断DIも、全産業で▲15となり前回調査より1ポイント改善した（12月=▲16→3月=▲15）。前回調査は総選挙直後に回収されており、業況が大幅に改善したとの結果であったが、今回もその流れを引き継いだ形となっている。業種別には、製造業が▲14と1ポイント悪化し（12月=▲13→3月=▲14）、なかでも機械器具は▲26と前回調査より20ポイントの大幅悪化で、景況感回復にはもたつきがみられる。一方、非製造業は▲16と3ポイント改善し（12月=▲19→3月=▲16）、なかでも建設業の改善の動きが顕著であった（図1～4）。

図1. 業種別天気図(景気水準)

	前回		今回		天気図 前回比較
	2012年10～12月期		2013年1～3月期		
全産業		<▲ 16>		<▲ 15>	
製造業		<▲ 13>		<▲ 14>	
金属製品		<▲ 11>		<▲ 10>	
機械器具		<▲ 6>		<▲ 26>	
その他の製造業		<▲ 18>		<▲ 9>	
非製造業		<▲ 19>		<▲ 16>	
建設業		<▲ 18>		<7>	
卸売業		<▲ 20>		<▲ 16>	
小売業		<▲ 36>		<▲ 44>	
サービス業		<▲ 11>		<▲ 8>	

(注) <>内は業況判断DI。景況天気図で示した景況判断は、業況判断DI値によって判定。本設問は2012年4～6月期調査より開始しており、景況判断は暫定的に、DI値がプラス10以上であれば晴れ☀、0～9は薄日☁、▲10～▲11は曇り☁、▲20～▲11は小雨🌧、▲21以下は雨🌧とした。図表における前回調査との比較の矢印マークは、景況天気図に基づくものであり、↗が好転、→が横ばい、↘が悪化を示す。

<sup>1</sup> 日銀短観は日本銀行「全国企業短期経済観測調査」の略。

<sup>2</sup> DIは、各景況項目について、「良い、上昇、増加」などと答えた企業の割合から「悪い、下落、減少」などと答えた企業の割合を引いた数値。日銀短観や本調査における「業況判断DI」は「良い」から「悪い」を引いた「水準」調査であるのに対して、本調査における「業況判断DI」以外の項目（「生産額」、「出荷額」など）は前期・前年同期と比べての「増加」などから「減少」などを引いた「方向性」調査である。なお、本稿ではマイナスを「▲」と表している。

景気の方角感を生産額などのDI（前年同期比）の推移で確認すると、製造業、非製造業ともに生産額や売上額などのDIはマイナス圏から抜け出せず厳しい状況が続いている（図5～6）。設備投資額DIも、製造業、非製造業ともに前回調査とほぼ横ばいのマイナス水準で推移しており、投資に対する慎重姿勢は崩れていない。

図2. 全産業・全規模の業況判断DI推移

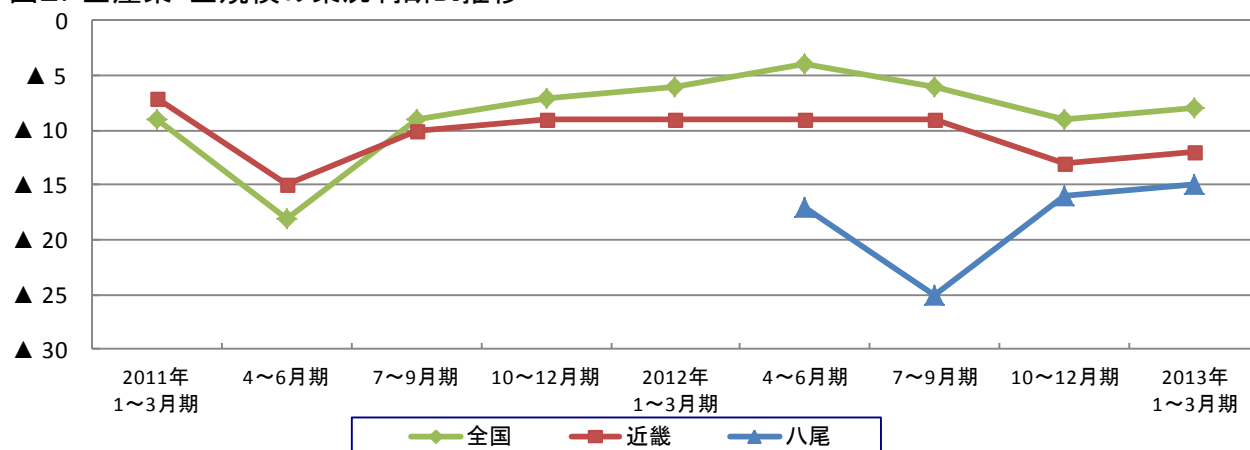


図3. 製造業・全規模の業況判断DI推移

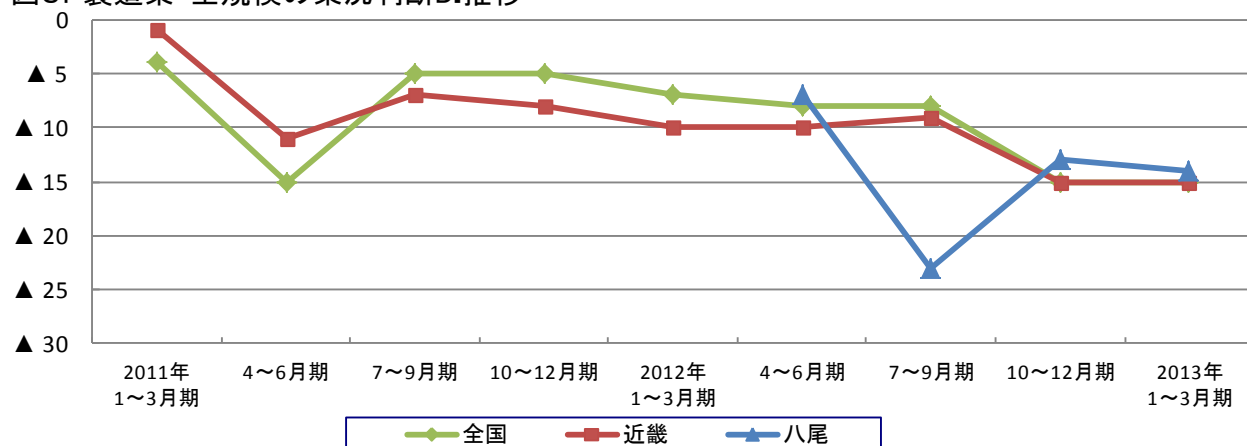


図4. 非製造業・全規模の業況判断DI推移

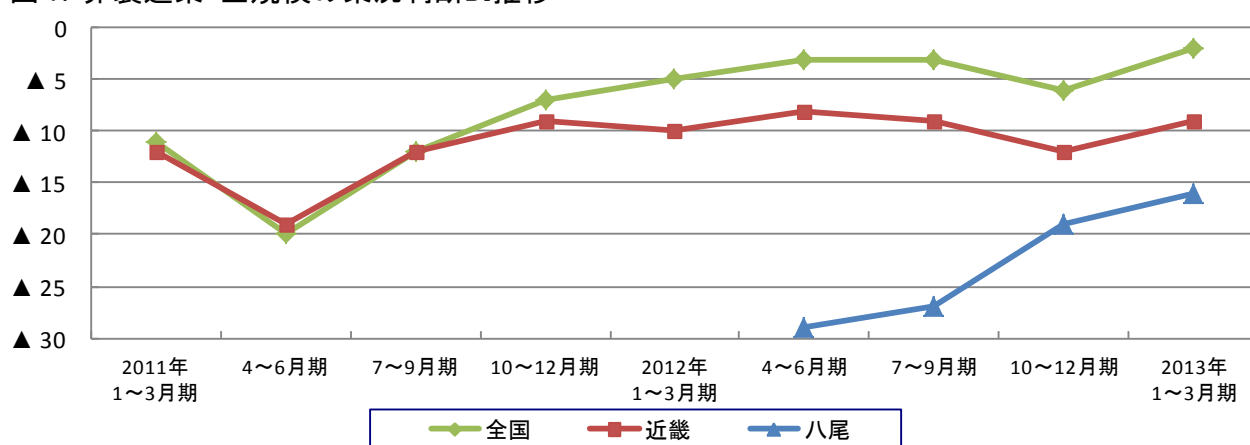


図5. 製造業の各種「前年同期比」DI推移

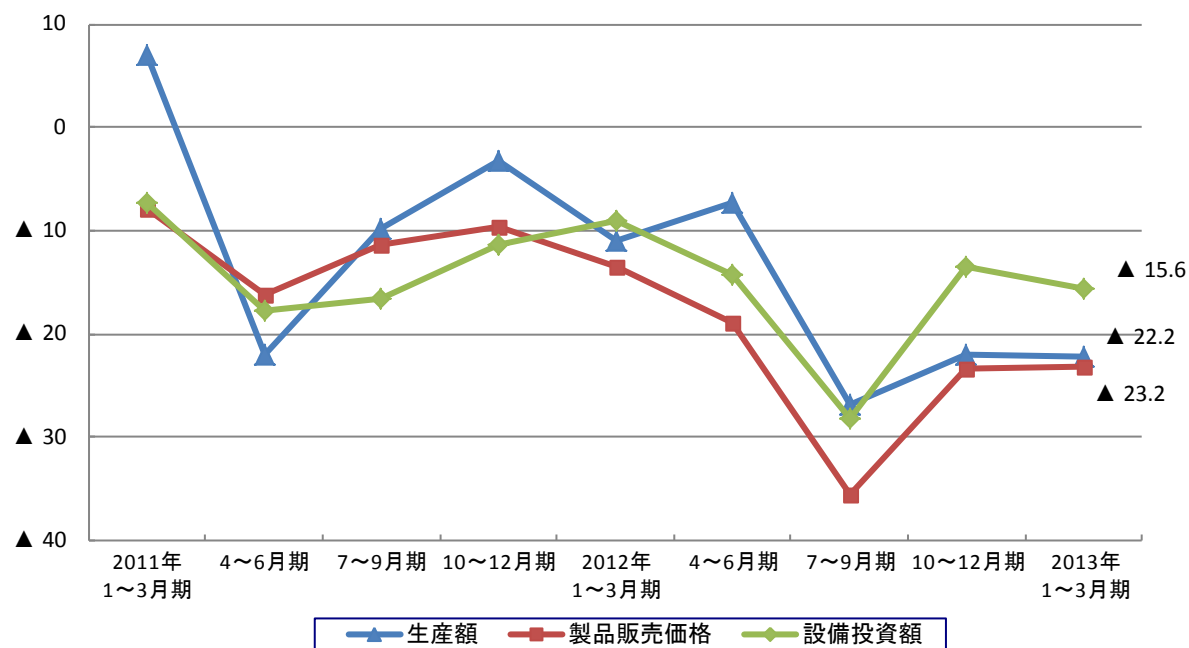
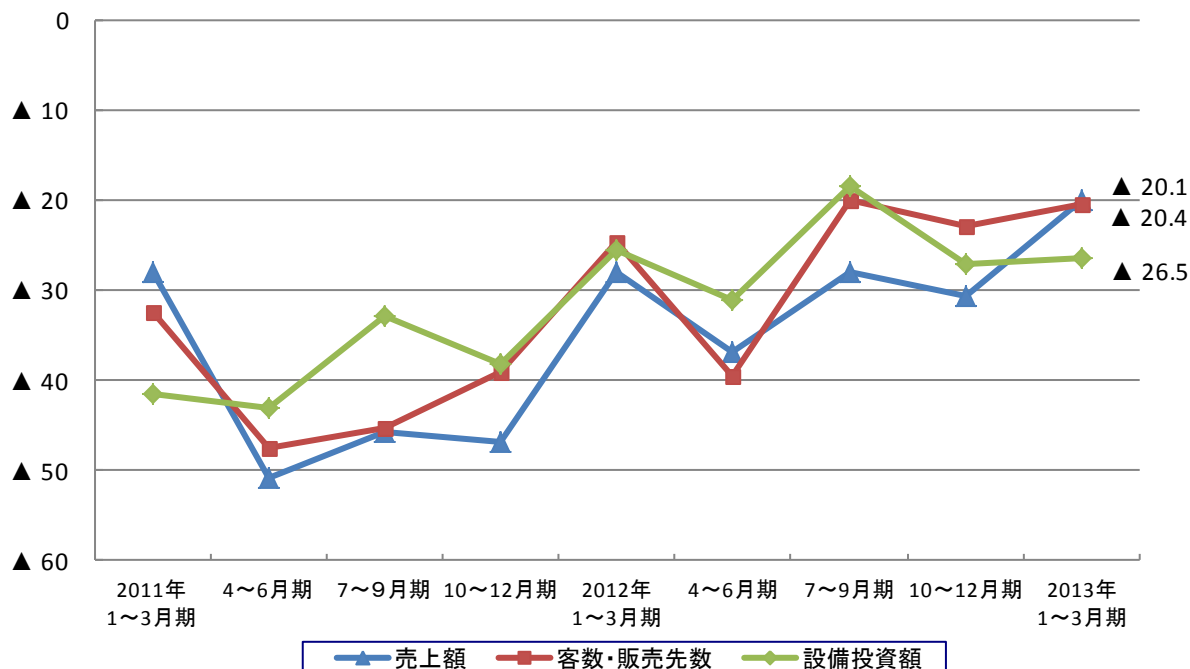


図6. 非製造業の各種「前年同期比」DI推移



(注)「前年同期比」DIは、各景況項目について、前年同期と比較して「良い、増加」などと答えた企業の割合から「悪い、減少」などと答えた企業の割合を引いた数値。

# 1. 製造業の景気動向

景況天気図は

(前回)



小雨

(今回)



## 【生産額】

製造業の2013年1～3月期における生産額D I（前期比、「増加」－「減少」）は▲23.5と、生産は伸び悩んでいる（前々回▲22.1→前回 ▲11.7→今回▲23.5）。業種別の内訳をみると、すべての業種がマイナスであった。「その他の製造業」は前回調査のプラスからマイナスとなり生産減に転じた。

表3. 生産額(前期比)

業種	当期の生産額は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			D I	前回D I
		増加	横這	減少		
金属製品	31	19.4	41.9	38.7	▲ 19.3	▲ 26.5
機械器具	41	22.0	43.9	34.1	▲ 12.1	▲ 21.2
その他の製造業	64	12.5	42.2	45.3	▲ 32.8	1.3
製造業計	136	16.9	42.7	40.4	▲ 23.5	▲ 11.7

前年同期と比べた生産額D Iは▲22.2と、マイナスが続いた（前々回▲26.8→前回▲22.0→今回▲22.2）。

表4. 生産額(前年同期比)

業種	当期の生産額は前年同期に比べて					
	回答数	構成比(%)			D I	前回D I
		増加	横這	減少		
金属製品	31	16.1	25.8	58.1	▲ 42.0	▲ 5.8
機械器具	40	25.0	35.0	40.0	▲ 15.0	▲ 25.0
その他の製造業	64	21.9	39.0	39.1	▲ 17.2	▲ 26.9
製造業計	135	21.5	34.8	43.7	▲ 22.2	▲ 22.0

## 【出荷額】

1～3月期の出荷額D I（前期比、「増加」－「減少」）は▲21.3と、出荷は減少傾向にある（前々回 ▲28.3→前回 ▲10.6→今回 ▲21.3）。業種別の内訳をみると、すべての業種がマイナスであったが、なかでも「その他の製造業」が▲26.2とマイナス幅が拡大した。

表5. 出荷額

業種	当期の出荷額は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			D I	前回D I
		増加	横這	減少		
金属製品	30	20.0	43.3	36.7	▲ 16.7	▲ 18.7
機械器具	41	24.4	34.1	41.5	▲ 17.1	▲ 16.0
その他の製造業	65	16.9	40.0	43.1	▲ 26.2	▲ 3.8
製造業計	136	19.9	38.9	41.2	▲ 21.3	▲ 10.6

## 【 製品在庫額 】

1～3月期の製品在庫額D I（前期比、「不足」－「過剰」）は▲6.4と、依然として在庫は過剰である（前々回 ▲14.0→前回 ▲9.8→今回 ▲6.4）。業種別の内訳をみると、金属製品が▲3.9、機械器具が▲10.8、「その他の製造業」が▲4.9と、すべての業種でマイナスであった。

表6. 製品在庫額

業 種	当期の製品在庫額は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			D I	前回D I
		不足	適正	過剰		
金 属 製 品	26	11.5	73.1	15.4	▲ 3.9	▲ 13.8
機 械 器 具	37	5.4	78.4	16.2	▲ 10.8	▲ 10.2
その他の製造業	62	3.2	88.7	8.1	▲ 4.9	▲ 7.9
製造業計	125	5.6	82.4	12.0	▲ 6.4	▲ 9.8

## 【 原材料仕入価格 】

1～3月期の原材料仕入価格D I（前期比、「値上」－「値下」）は 35.8 と、プラス幅が大きく拡大し価格上昇傾向が顕著である（前々回9.8→前回3.1→今回35.8）。業種別の内訳をみても、金属製品が 30.0 と値上がりに転じ、機械器具や「その他の製造業」もプラス幅が拡大した。

表7. 原材料仕入価格

業 種	当期の原材料仕入価格は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			D I	前回D I
		値上	横這	値下		
金 属 製 品	30	30.0	70.0	0.0	30.0	▲ 3.0
機 械 器 具	41	24.4	73.2	2.4	22.0	±0
その他の製造業	63	49.2	49.2	1.6	47.6	7.8
製造業計	134	37.3	61.2	1.5	35.8	3.1

## 【 製品販売価格 】

1～3月期の製品販売価格D I（前期比、「値上」－「値下」）は▲19.2と、販売価格は引き続き下落傾向である（前々回▲28.8→前回▲23.2→今回 ▲19.2）。業種別の内訳をみると、金属製品が▲26.7、機械器具が▲24.4、「その他の製造業」が▲12.3と、すべての業種でマイナスであった。

表8. 製品販売価格(前期比)

業 種	当期の製品販売価格は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			D I	前回D I
		値上	横這	値下		
金 属 製 品	30	3.3	66.7	30.0	▲ 26.7	▲ 24.3
機 械 器 具	41	0.0	75.6	24.4	▲ 24.4	▲ 26.9
その他の製造業	65	4.6	78.5	16.9	▲ 12.3	▲ 20.3
製造業計	136	2.9	75.0	22.1	▲ 19.2	▲ 23.2



前年同期と比べた製品販売価格D Iも▲23.2と、マイナスが続いた（前々回 ▲35.6→前回 ▲23.3→今回 ▲23.2）。

表9. 製品販売価格(前年同期比)

業 種	当期の製品価格は前年同期に比べて					
	回答数	構成比(%)			D I	前回D I
		値上	横這	値下		
金 属 製 品	30	10.0	50.0	40.0	▲ 30.0	▲ 24.3
機 械 器 具	40	5.0	52.5	42.5	▲ 37.5	▲ 27.4
その他の製造業	64	14.1	60.9	25.0	▲ 10.9	▲ 20.2
製造業計	134	10.4	56.0	33.6	▲ 23.2	▲ 23.3

### 【 採算状況 】

1～3月期の採算状況D I（前期比、「好転」－「悪化」）は▲35.1と、悪化傾向である（前々回▲39.2→前回▲29.3→今回▲35.1）。業種別の内訳をみても、すべての業種でマイナスが続いた。

表10. 採算状況

業 種	当期の採算状況は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			D I	前回D I
		好転	横這	悪化		
金 属 製 品	31	12.9	41.9	45.2	▲ 32.3	▲ 41.2
機 械 器 具	41	2.4	61.0	36.6	▲ 34.2	▲ 28.8
その他の製造業	65	4.6	53.9	41.5	▲ 36.9	▲ 24.4
製造業計	137	5.8	53.3	40.9	▲ 35.1	▲ 29.3

### 【 資金繰り 】

1～3月期の資金繰りD I（前期比、「好転」－「悪化」）は▲18.4と、資金繰りは厳しい状況が続いている（前々回 ▲23.1→前回 ▲19.1→今回 ▲18.4）。業種別の内訳をみると、金属製品が▲19.3、機械器具が▲12.2、「その他製造業」が▲21.9と、すべての業種でマイナスが続いた。

表11. 資金繰り

業 種	当期の資金繰りは前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			D I	前回D I
		好転	横這	悪化		
金 属 製 品	31	6.5	67.7	25.8	▲ 19.3	▲ 14.7
機 械 器 具	41	2.4	83.0	14.6	▲ 12.2	▲ 19.3
その他の製造業	64	4.7	68.7	26.6	▲ 21.9	▲ 20.8
製造業計	136	4.4	72.8	22.8	▲ 18.4	▲ 19.1

## 【 受注状況 】

1～3月期の受注状況D I（前期比、「増加」－「減少」）は▲31.4と、依然として受注が悪化する傾向にある（前々回▲38.2→前回 ▲32.5→今回 ▲31.4）。業種別の内訳をみると、すべての業種でマイナスが続いた。

表12. 受注状況

業 種	当期の受注状況は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			D I	前回D I
		増加	横這	減少		
金 属 製 品	31	16.1	38.7	45.2	▲ 29.1	▲ 41.2
機 械 器 具	41	17.1	36.6	46.3	▲ 29.2	▲ 35.3
その他の製造業	65	7.7	50.8	41.5	▲ 33.8	▲ 26.9
製造業計	137	12.4	43.8	43.8	▲ 31.4	▲ 32.5

## 【 設備投資額 】

1～3月期の設備投資額D I（前年同期比、「増加」－「減少」）は▲15.6と、投資姿勢は慎重である（前々回 ▲28.2→前回 ▲13.6→今回 ▲15.6）。業種別の内訳をみると、すべての業種でマイナスであった。

表13. 設備投資額

業 種	当期の設備投資額は前年同期に比べて					
	回答数	構成比(%)			D I	前回D I
		増加	横這	減少		
金 属 製 品	27	7.4	70.4	22.2	▲ 14.8	▲ 24.2
機 械 器 具	38	2.6	60.6	36.8	▲ 34.2	▲ 21.6
その他の製造業	63	15.9	63.5	20.6	▲ 4.7	▲ 3.9
製造業計	128	10.2	64.0	25.8	▲ 15.6	▲ 13.6

## 【 向こう3ヶ月の景況 】

1～3月期における向こう3ヶ月の景況判断D I（「好転」－「悪化」）は▲4.6と、マイナス幅は大きく縮小した（前々回 ▲37.4→前回▲38.3→今回 ▲4.6）。業種別の内訳をみると、金属製品や機械器具はマイナスが続く一方、「その他の製造業」はプラスに転じ先行きが好転する見込みとなった。

表14. 向こう3ヶ月の景況

業 種	向こう3ヶ月の景況					
	回答数	構成比(%)			D I	前回D I
		好転	横這	悪化		
金 属 製 品	31	19.4	48.3	32.3	▲ 12.9	▲ 41.2
機 械 器 具	39	17.9	43.6	38.5	▲ 20.6	▲ 38.0
その他の製造業	62	27.4	54.9	17.7	9.7	▲ 37.1
製造業計	132	22.7	50.0	27.3	▲ 4.6	▲ 38.3

## 2. 非製造業の景気動向

景況天気図は  
(前回)

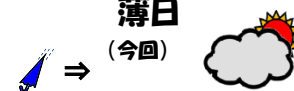
小雨  
(今回)



### 建設業

景況天気図は  
(前回)

薄日  
(今回)



1～3月期の状況を各種DI（前期比）で見ると、資材仕入価格や労務費はプラス（上昇超）とコストが上昇する傾向にある一方で、採算状況はマイナス（悪化）と引き続き厳しい状況である。もっとも、受注単価はマイナス水準ながらもその幅は縮小しており、売上額がプラスに転じるなど明るい動きがみられる。受注状況も±0と下げ止まりがみられる。向こう3ヶ月の景況もプラスに転じ、好転見込みとなっている。

前年同期比DIをみると、売上額はプラスに転じた。ただし、設備投資額DIは引き続きマイナスで、投資には慎重であることがうかがえる。

表15. 建設業の景気動向

景気動向指標	回答数	構成比(%)			DI	前回DI	
		増加 不足 値上 好転	横這 適正	減少 過剰 値下 悪化			
前期比	売上額	15	40.0	40.0	20.0	20.0	▲ 9.1
	資材仕入価格	15	46.7	53.3	0.0	46.7	9.1
	労務費	15	20.0	80.0	0.0	20.0	13.6
	工事引合件数	15	26.7	40.0	33.3	▲ 6.6	▲ 22.8
	受注単価	15	6.7	73.3	20.0	▲ 13.3	▲ 38.1
	採算状況	15	0.0	73.3	26.7	▲ 26.7	▲ 41.0
	資金繰り	15	0.0	86.7	13.3	▲ 13.3	▲ 14.3
	受注状況	15	20.0	60.0	20.0	±0	▲ 4.5
向こう3ヶ月の景況	15	13.3	80.0	6.7	6.6	▲ 22.8	
前同期年比	売上額	15	33.3	53.4	13.3	20.0	▲ 22.7
	受注状況	15	20.0	60.0	20.0	±0	▲ 13.6
	設備投資額	14	0.0	64.3	35.7	▲ 35.7	▲ 47.6

## 【卸売業】

景況天気図は

(前回)



(今回)

小雨



1～3月期を前期と比べると、売上額、販売先数、客単価の各DIはマイナス（減少超、下落超）が続き、悪化傾向にある。事業環境は好転していないなかで、商品仕入価格DIがプラス（値上超）に転じた一方、商品販売価格はマイナス（値下超）と、価格転嫁が困難な状況にある。採算状況や粗利益率はマイナスと、厳しい状況である。

前年同期との比較では、売上額、販売先数、設備投資額の各DIでマイナス（減少超）と、悪化傾向であった。

表16. 卸売業の景気動向

景気動向指標	回答数	構成比(%)			DI	前回DI	
		増加 不足 値上 好転	横這 適正	減少 過剰 値下 悪化			
前期 比	売上額	35	8.6	40.0	51.4	▲ 42.8	▲ 28.6
	販売先数	36	8.3	72.3	19.4	▲ 11.1	▲ 11.9
	客単価	36	5.6	66.6	27.8	▲ 22.2	▲ 34.2
	商品仕入価格	36	27.8	66.6	5.6	22.2	▲ 4.9
	商品在庫	36	5.6	75.0	19.4	▲ 13.8	▲ 14.2
	商品販売価格	35	8.6	68.5	22.9	▲ 14.3	▲ 33.4
	採算状況	36	5.6	55.5	38.9	▲ 33.3	▲ 31.0
	資金繰り	36	5.6	80.5	13.9	▲ 8.3	▲ 12.2
	粗利益率	36	0.0	58.3	41.7	▲ 41.7	▲ 33.4
	向こう3ヶ月の景況	36	13.9	47.2	38.9	▲ 25.0	▲ 47.7
前同期 年比	売上額	36	16.7	47.2	36.1	▲ 19.4	▲ 26.2
	販売先数	35	11.4	71.5	17.1	▲ 5.7	▲ 11.9
	設備投資額	32	18.8	59.3	21.9	▲ 3.1	▲ 13.1

## 小売業

景況天気図は

(前回)



(今回)

雨



前期と比べた1～3月期の状況を見ると、売上額、販売先数の各DIがマイナス（減少超）であり、依然として事業を取り巻く状況は厳しい。商品仕入価格はプラス（上昇超）幅が拡大し上昇傾向が顕著であった。一方、商品販売価格は依然としてマイナス（下落超）であるがマイナス幅は大きく縮小し、値下げ圧力への抵抗を強めている。もっとも販売が振るわないことから、採算状況DIはマイナス（悪化超）が続いている。向こう3ヶ月の景況もマイナスと、悪化見込みである。

前年同期との比較でも、売上額、販売先数、設備投資ともに減少傾向である。

表17. 小売業の景気動向

景気動向指標		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			増加 不足 値上 好転	横這 適正	減少 過剰 値下 悪化		
前期 比	売上額	19	15.8	26.3	57.9	▲ 42.1	▲ 50.0
	販売先数	18	11.1	33.3	55.6	▲ 44.5	▲ 42.3
	客単価	19	10.5	31.6	57.9	▲ 47.4	▲ 38.5
	商品仕入価格	18	38.9	50.0	11.1	27.8	7.7
	商品在庫	19	5.3	78.9	15.8	▲ 10.5	▲ 11.6
	商品販売価格	19	21.1	52.6	26.3	▲ 5.2	▲ 38.5
	採算状況	19	5.3	21.0	73.7	▲ 68.4	▲ 50.0
	資金繰り	19	5.3	31.5	63.2	▲ 57.9	▲ 44.0
	粗利益率	18	11.1	11.1	77.8	▲ 66.7	▲ 57.7
	向こう3ヶ月の景況	19	10.5	42.1	47.4	▲ 36.9	▲ 56.0
前同期 年比	売上額	19	10.5	26.3	63.2	▲ 52.7	▲ 53.9
	販売先数	19	5.3	26.3	68.4	▲ 63.1	▲ 46.1
	設備投資額	18	5.6	33.3	61.1	▲ 55.5	▲ 24.0

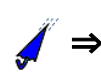
サービス業

景況天気図は

(前回)

曇り

(今回)



1～3月期を前期と比べると、DIは全般的にマイナス幅の縮小がみられ、悪化傾向の弱まりがみられた。なかでも客数はプラスに転じ増加傾向となった。

前年同期との対比では、売上額、客数、設備投資額の各DIでマイナス（減少超）が続いた。

表18. サービス業の景気動向

景気動向指標		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			増加 不足 値上 好転	横這 適正	減少 過剰 値下 悪化		
前期 比	売上額	39	28.2	38.5	33.3	▲ 5.1	▲ 20.0
	客数	39	23.1	59.0	17.9	5.2	▲ 15.4
	客単価	39	12.8	59.0	28.2	▲ 15.4	▲ 25.6
	採算状況	39	17.9	51.3	30.8	▲ 12.9	▲ 41.0
	資金繰り	39	12.8	64.1	23.1	▲ 10.3	▲ 35.9
	粗利益率	38	13.2	55.2	31.6	▲ 18.4	▲ 41.0
	向こう3ヶ月の景況	38	18.4	47.4	34.2	▲ 15.8	▲ 35.9
前同期 年比	売上額	39	20.5	38.5	41.0	▲ 20.5	▲ 25.0
	客数	39	12.8	53.9	33.3	▲ 20.5	▲ 24.3
	設備投資額	38	7.9	55.3	36.8	▲ 28.9	▲ 32.4

### 3. 緊急事態への対応・事業継続計画(BCP)策定などの取り組みについて

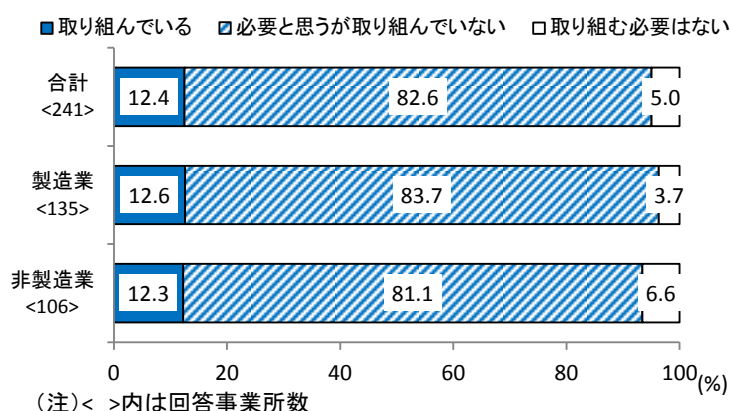
今回の調査では地震等災害の緊急事態が生じた際のマニュアル作成（BCP策定）への取組状況を調査した。

#### (1) BCP策定への取組状況

BCP策定に「取り組んでいる」のは回答事業所全体の12.4%であり、「必要と思うが取り組んでいない」(82.6%)が大多数を占めた(図7)。

製造業、非製造業別にみると、BCP策定への取組状況にほとんど差異はなく、「取り組んでいる」と回答した事業所は12%台であり、「必要と思うが取り組んでいない」が80%台前半である。

図7. BCP策定状況

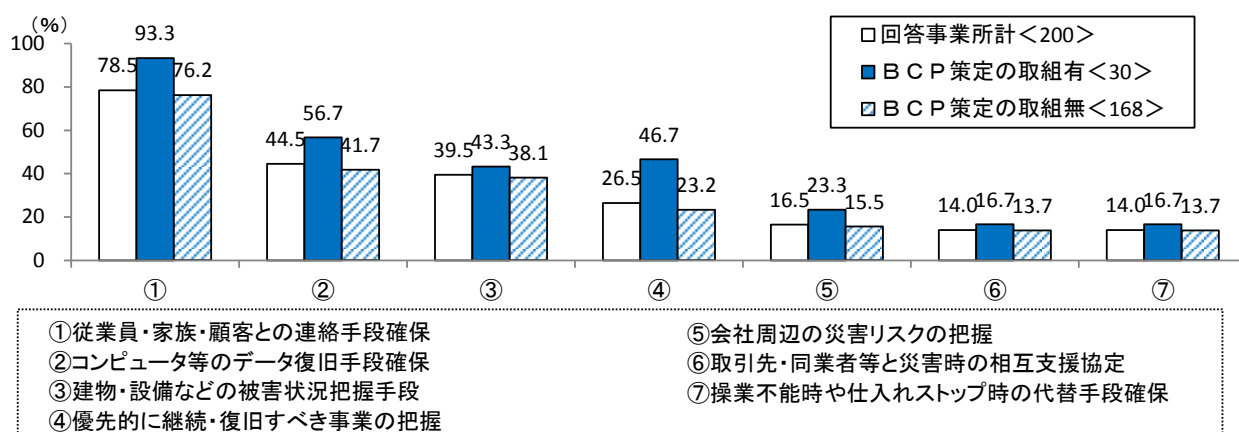


#### (2) 緊急事態発生時の備え

緊急事態発生時に備えていることとして、回答事業所全体で最も多いのが「従業員・家族・顧客との連絡手段確保」(78.5%)で、次いで「コンピュータ等のデータ復旧手段確保」(44.5%)、「建物・設備などの被害状況把握手段」(39.5%)であった(図8)。

BCP策定の取り組みの有無別にみると、対応すべき事態への認識に大きな違いはないものの、各項目の回答割合はBCP策定に取り組んでいる事業所の方が取り組みの無い事業所(BCP策定について「必要と思うが取り組んでいない」および「取り組む必要はない」とする事業所の合計)よりも上回る。なかでも、製造業では、「優先的に継続・復旧すべき事業の把握」において、取り組んでいる事業所の方が取り組みの無い事業所に比べて顕著に大きく、緊急時の体制への備えの面で違いがみられる(表19)。

図8. 緊急事態発生時に備えていること(複数回答)



(注) 凡例< >内は回答件数。「BCP策定の取組無し事業所」は、BCP策定が「必要と思うが取り組んでいない」および「取り組む必要はない」と回答した事業所の合計。

表 19. 緊急事態発生時に備えていること（業種別、複数回答）

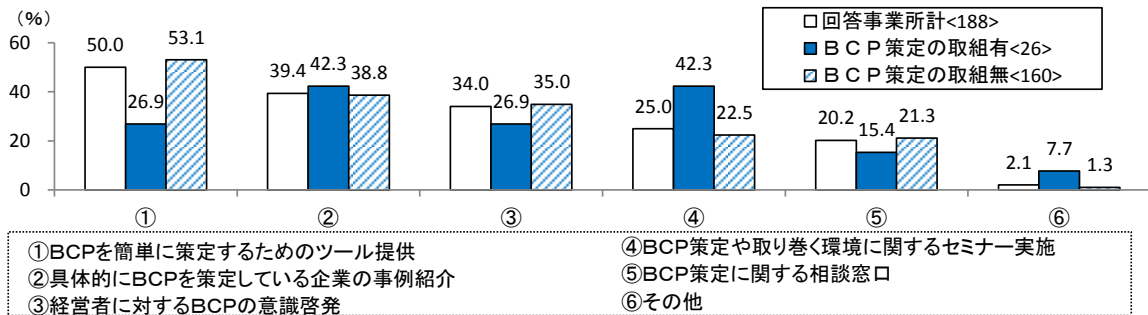
	従業員・家族・顧客との連絡手段確保	コンピュータ等のデータ復旧手段確保	建物・設備などの被害状況把握手段	優先的に継続・復旧すべき事業の把握	会社周辺の災害リスクの把握	取引先・同業者等と災害時の相互支援協定	操業不能時や仕入れストップ時の代替手段確保
製造業計<112>	82.1	42.0	42.0	26.8	15.2	18.8	14.3
BCP策定の取組有<17>	94.1	52.9	41.2	58.8	23.5	23.5	23.5
BCP策定の取組無<95>	80.0	40.0	42.1	21.1	13.7	17.9	12.6
非製造業計<88>	73.9	47.7	36.4	26.1	18.2	8.0	13.6
BCP策定の取組有<13>	92.3	61.5	46.2	30.8	23.1	7.7	7.7
BCP策定の取組無<73>	71.2	43.8	32.9	26.0	17.8	8.2	15.1

(3) BCP策定のために必要な支援

事業継続計画（BCP）を策定する際に必要な支援は、回答事業所全体では、「BCPを簡単に策定するためのツール提供」（50.0%）が最多で、次いで「具体的にBCPを策定している企業の事例紹介」（39.4%）、「経営者に対するBCPの意識啓発」（34.0%）が多い（図9）。

BCP策定の取組有無別にみると、取り組んでいる事業所が必要と指摘する支援は「BCP策定や取り巻く環境に関するセミナー実施」（42.3%）や「具体的にBCPを策定している企業の事例紹介」（42.3%）が多く、情報提供への期待が大きいことがうかがえる。一方、取り組んでいない事業所では「BCPを簡単に策定するためのツール提供」（53.1%）が最も多く、業種別にみても製造業、非製造業ともに最多であった（表20）。さらに、「具体的にBCPを策定している企業の事例紹介」も、既にBCP策定に取り組んでいる事業所同様、支援策として期待が大きい。

図9. BCP策定のために必要な支援（複数回答）



(注) 図8に同じ。

表 20. BCP 策定のために期待する支援（業種別、複数回答）

	BCPを簡単に策定するためのツール提供	具体的にBCPを策定している企業の事例紹介	経営者に対するBCPの意識啓発	BCP策定や取り巻く環境に関するセミナー実施	BCP策定に関する相談窓口	その他
製造業<105>	54.3	39.0	28.6	21.0	23.8	2.9
BCP策定の取組有<15>	33.3	46.7	20.0	26.7	20.0	13.3
BCP策定の取組無<90>	57.8	37.8	30.0	20.0	24.4	1.1
非製造業<83>	44.6	39.8	41.0	30.1	15.7	1.2
BCP策定の取組有<11>	18.2	36.4	36.4	63.6	9.1	0.0
BCP策定の取組無<70>	47.1	40.0	41.4	25.7	17.1	1.4

#### 4. 経営上の問題点・業界の動向など

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

業種	規模	コメント内容
製造	A	円安によるエネルギーコストが上昇している中、輸出型業界の生産が回復しておらず、価格転嫁が受け入れられない状況。根気強く進めなければ、業界の存続が厳しい。
製造	A	徳政令の期限切れで、連鎖倒産が懸念される。
製造	C	アベノミクスは全く関係ない。
製造	C	加工賃の下落が止まらない状況が続いており、無謀な経営が続いている。合理化・効率化も限界にきている。その上、電気料金が値上げされる状況下で、利益を出せる方策が見つからない。
製造	A	鋼材や樹脂などの値上がりが心配。
製造	A	原材料値上げ（4月中）製品価格への転嫁困難→採算状況悪化必至。
製造	A	事業継続に関しては、関連企業より情報を得ています。
製造	A	電気料金の値上げ&ガソリン原材料が4月から値上げ。
製造	D	「インフレ政策による景気回復の早期実現」に期待したい。
製造	A	景気は本当によくなるのだろうか。周りは良くない話ばかり。
製造	A	仕事が少なく値段も安価。
製造	B	輸入木材の比率が多くなり、入手困難な材があり、今後は代替品の検討が必要になりつつある。
製造	A	中小零細にとり、資金の調達及び企画政策に関しても八方塞がり状態、上部（得意先）の状況による影響が大きく、内需拡大路線の構築が必要と思われるが、現在のデフレ状態では一社一社の努力だけでは焼け石に水であるし、格差社会としての広がりをもっと大きくなる現状の打破が必要。
建設	A	アベノミクス効果は出ていると思うが実際はそうでもないと思う。建設業界引合は多いが受注額の安さは、まだまだのものです。職人不足（労働賃金の高騰）・管理者不足などの問題がまだまだあるように思います。



業種	規模	コメント内容
卸・小売	A	大型ショッピングセンターができてから、来店客数、客単価が減少しつつある。仕入れを控えたいが、そうもいかず厳しい状況です。
卸・小売	A	業界的には悪いが、新しい取り組みを行っている所は伸び始めている。それぞれの強みやできることを知ることができる場所があれば良い。
卸・小売	B	雰囲気は良好であるが、実態を伴わない。
卸・小売	A	建築関係が非常に悪い。これから商品値上がりする通知がきている。
卸・小売	A	電力料金値上げによる価格問題。当社関係取引先とも非常に影響をうけるので先行不安。
サービス	A	よくなってきたのはアベノミクス？と無関係。たまたま後継者が来てもらって、新しい事業展開のための努力によるもの。
サービス	A	よろしくご指導お願いします。
サービス	A	来年3月に廃業。
サービス	A	単価が良くならない限り、経営がこれ以上難しくなった。年々、赤字経営が続き、苦しい。単価が上がらず、他部品、燃料等が高くさらに苦しい。

※規模

A=5～19人、B=20～49人、C=50～99人、D=100～299人、E=300人以上

※コメントは、できるだけ原文のまま掲載していますが、一部にご意見の主旨を曲げることなく加筆・修正している場合があります。また、調査を実施した2013年3月時点での表現となっています。